

国スタジアム

8日(月)

大会 競技

陸上日本インカレ

OUHS
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES
スポーツ

大体育大

第44号
発行責任者
大阪体育大学広報室
室長 大坪 康巳
編集長 大坪 康巳
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
電話 (072) 453-7021
FAX (072) 453-8818
協力=教育後援会・学友会

陸上競技部

第94回日本学生陸上対校選手権大会

陸上競技の第94回日本学生対校選手権大会が6月5、8日、岡山市で行われ、陸上競技部は十種競技で山本湧斗(体育3年、兵庫・明石商業)が自己ベストを大幅に更新する73.19点で2位。女子砲丸投げで中原鈴(同、東大阪大学敬愛)が14.67で3位となり、ともに表彰台に立った。

十種 表彰台 山本2位 砲丸 中原3位

未体験の「ゾーン」に入り自己新

スポーツ心理学では、アスリートが極度に集中し、最高のパフォーマンスを自然に発揮できる心理状態を「ゾーン」と呼ぶ。

山本は「自分は確かに経験していたこのゾーンに入っていた」と10種目を回った2日後を振り返る。

「自分の中で『行け』という意識がどんどん湧いてきたのだ」という。

この気持ちは、6月6日、1種目の1000mをいきなり自己ベストの10秒88で走ってから生まれた。2種目の走り幅跳びも、追い風参考ながら7.44の自己ベストと

なった。5種目の400mも自己ベストだった。一晩経ってもゾーンは抜けず、翌7日も2種目はやや苦手だったが、自己ベスト。3種目の得意の棒高跳びではベストを出なかったが4.90で圧勝すると、苦手だったはずの4種目のやり投げで自己ベスト。開始は午後9時13分にすぎたが最後の1500mも自己ベスト。

200年以上の自己ベスト更新は、試合から長期離れ、時を置いて一度もなかった練習を、練習してきた系をしっかりと練習したことが、パワースタートにつながったと理由だ。

卒業後は高校で保健体育科教師になるつもりだったが、5月の関西インカレで自己ベストを出すなど結果が出始め、欲が出てきたという。この日本インカレの記録では、きりした。もう少し競技を続けたいなってきた。大好きな十種競技をさらに究める。

ライバルで友人の後輩と切磋琢磨

大阪体育大学から3人が出場した女子砲丸投げ。中原は、4月の日本学生個人選手権でいきなり2位に入った「スーパー年生」の坂井はる(スポーツ科学、大阪体育大学浪商)に競り勝った。「全国大会で初めて表彰台に立てたうれしい気持ちはあるが、自己ベストに1つ届かなかった」とさらなる飛躍を目指す。

中原は東大阪大学敬愛高校3年の時、U-18日本選手権で4位入賞した選材だ。2023年関西インカレ砲丸投げ優勝の山本佳奈、関西インカレ砲丸投げ4連覇の中瀬綺音らに勝った高校の先輩と一緒に陸上に入ったという思いで、大体大に進んだ。

1年生で日本インカレ出場。2年生では関西インカレで優勝し、日本学生個人選手権で5位入賞と順調に結果を出してきた。しかし、高校生ながら日本選手権で美園、大学選手と競って8位入賞した坂井が、入学早々の4月の日本学生個人選手権で5位に入った。関西インカレは坂井が優勝し、中原は2位だった。

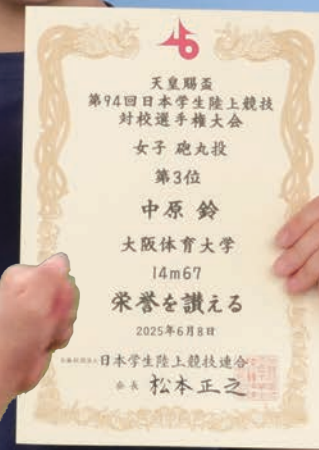
計7人入賞

日本インカレでは、男子は砲丸投げで黒田翔貴(大学院博士前期課程2年、兵庫・伊川谷北)が16.24で4位、やり投げで須藤勇大(体育4年、群馬・前橋育英)が8.93で7位、

位。女子は砲丸投げで坂井はるが14.67で4位、ハンマー投げで川島空(体育3年、大阪体育大学浪商)が57.67で6位、やり投げで川合小想(体育4年、三重・松阪商業)が51.68で8位。表彰台の2人のほか、5人が入賞。対校得点の女子フィールドは15点で、関西勢としてトップの5位だった。



十種競技を終えた山本(左)。右は16位の大坪大・三和龍之介(体育学部3年、兵庫・社)



陸上競技部

対校フィールド得点男女1位 スーパー1年坂 鮮烈デビュー

関西学生陸上競技対校選手権大会／日本学生陸上競技個人選手権大会

陸上競技部は4月に神奈川県平塚市で開催された日本学生個人選手権大会で2種目で表彰台に立った。5月に大阪市で行われた第102回関西学生対校選手権大会は、男女砲丸投げで優勝するなど延べ11人が表彰台に立ち、対校得点ではフィールド得点で男女とも1位となった。

日本学生個人で鮮烈なデビューを飾ったのは、1年生の坂はる（スポーツ科学、大阪体育大学浪商）。女子砲丸投げで、自新記録で関西学生新記録となる16.34メートルをマークして1位。高校3年だった昨年、日本陸上競技選手権で実業団、大学選手と競って8位入賞した地力を見せた。

関西学生でも、坂はるは60で優勝し、中原鈴（体育3年、東大阪大学敬愛）、武田光里（同、奈良・添上）と1〜3位を独占した。また、男子砲丸投げの黒田翔貴（大学院博士前期課程）も日本学生個人で16.52の自己新で3位入り、関西学生ではこの記録を更新し16.65で優勝した。

関西学生ではこのほか、男子やり投げで連覇を狙った須藤勇大（体育4年、群馬・前橋育英）は最終6投目で71.37をマークして逆転トップに立ったが、直後に再逆転



黒田翔貴（大学院博士前期課程）

須藤勇大（体育4年、群馬・前橋育英）



坂はる（スポーツ科学1年、大阪体育大学浪商）

武田光里（体育3年、奈良・添上）



藤田唯愛（体育2年、三重・松阪商業）



川本想（体育4年、三重・松阪商業）



鈴木陸公（体育4年、北海道・帯広農大）



湯浅可絏（大学院博士前期課程）



吉山誠（体育3年、大阪・大塚）

◆日本学生陸上競技個人選手権大会（4月25〜27日、神奈川県・レノガスタジアム平塚）
【男子】▽砲丸投げ ③黒田翔貴16.52（自新記録）▽やり投げ ④須藤勇大71.37（自新記録）▽山本湧斗70.64（自新記録）▽三和龍之介60.41（自新記録）
【女子】▽砲丸投げ ②坂はる16.34（自新記録）▽やり投げ ④須藤唯愛64.21（自新記録）▽川本想51.37（自新記録）▽藤田唯愛49.37（自新記録）▽小松夏希49.37（自新記録）
【男子】▽1500m ③吉山誠3分34秒72（自新記録）▽5000m ③岡本隆大14分51秒（自新記録）▽10000m ③山本湧斗15分00秒（自新記録）▽20000m ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）▽50km ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）▽100km ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）▽200km ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）
【女子】▽1500m ③吉山誠3分34秒72（自新記録）▽5000m ③岡本隆大14分51秒（自新記録）▽10000m ③山本湧斗15分00秒（自新記録）▽20000m ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）▽50km ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）▽100km ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）▽200km ③黒田翔貴16分04秒（自新記録）

レセプション強化に手応え 秋の1部復帰向け攻撃磨く

関西大学バレーボール部春季リーグ

バレーボール部男子は1部に昇格した4〜5月の関西大学春季リーグで11位。2部降格が決まったが、沼田薫監督は課題だったレセプション（サーブレシーブ）の向上を「大きな成果」と評価する。

1部昇格だった昨年、率7位に入った。リベロの山本泰地（スポーツ科学2年、本郷）は、サーブ成功率は6位と大幅に向上。ディグのフォーメーションで的確に指を出し、チームを率えた。攻撃面は、アタック決定率で最上位に終わり課題を残したが、素早い動きの祝所光（体育3年、和歌山・開成）は同成功



祝所光（体育3年、和歌山・開成）



出水希希（体育4年、大阪・大商学園）

松浦和貴（体育4年、岩手・南宮）

高倉快周（体育3年、京都府・開成）

異例の1年生4人 伸びしる無限大

関西大学バレーボール部春季リーグ
西日本バレーボール大学女子選手権大会

バレーボール部女子は4〜5月の関西大学春季リーグ1部を5勝6敗、7位で終えた。6月の西日本大学女子選手権は1回戦で園田学園大学に1〜2で敗れた。長江晃監督は「最終戦は部の歴史でも記憶にない1年生4人が出場し、未完成のチームだが、伸びしるは他大学以上に」と秋に向けた成長を期待する。

女子 リーグ戦は、初戦から1年生3人を起用。須藤舞（教育、宮崎・延岡学園）は攻撃力、宇戸凛々花（スポーツ科学、福岡・誠修）はブロックとして貢献し、太田花菜（岡山・山陽学園）はタックル決定率で個人ランキング8位に入った。



太田花菜（スポーツ科学1年、岡山・山陽学園）



宇戸凛々花（スポーツ科学1年、誠修）



徳永優奈（体育4年、福岡・誠修）



本平碧海（スポーツ科学2年、長崎・純心女子）

一方で大黒柱の徳永優奈（体育4年、誠修）はポイントゲッターとして相手マークが厳しい中で、アタック決定率を秋から大幅に向上させて3位。黒木陽奈（体育3年、高崎・都城商業）はクイックを増やして決定率を上げるなど、上級生が1年生を支えた。昨秋途中から正セッターとなった本平碧海（スポーツ科学2年、長崎・純心女子）も順調に成長している。課題はブロック、レシーブだが、今後、1年生がチーム戦術に慣れていく中で向上が期待できる。秋に向け、長江監督は、目標の優勝に向け、何をしたらいいのかを考えている。伸びる集団の成長が楽しみだ。

関西学生V・西日本2位 4年生軸にチーム一丸



横山(体育4年、滋賀・草津東) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。4年生の横山は、チームの軸として活躍した。



南涼華(体育4年、和歌山・和歌山北) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。4年生の南涼華は、チームの軸として活躍した。



橋本和菜(スポーツ科学1年、大阪体育大学浪速) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。1年生の橋本和菜は、チームの軸として活躍した。



加細友里(体育4年、和歌山・和歌山北) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。4年生の加細友里は、チームの軸として活躍した。

体操競技部

関西学生体操選手権大会／西日本学生体操選手権大会



山崎海音(スポーツ科学1年、鹿児島・出水南) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。1年生の山崎海音は、チームの軸として活躍した。

史上初の西日本2連覇! 築山、山崎でワンツー



山崎海音(スポーツ科学1年、鹿児島・出水南) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。1年生の山崎海音は、チームの軸として活躍した。



山崎海音(スポーツ科学1年、鹿児島・出水南) 予選、決勝、準決勝、準々決勝、銅メダル獲得。1年生の山崎海音は、チームの軸として活躍した。



神山・川口組が「演技」V 高校女王(神)が2度の手術を経て復活

なぎなた部

なぎなた部は6月の第44回関西学生選手権大会で、技の正確さや美しさ、呼吸の合い方を競う演技(有段の部)で、神山美完(体育3年、愛媛・北条・川口知咲季(同和歌山北)組が優勝した。

個人(三三三の部)は川口、高溝遥風(体育3年、福井・鯖江)、長田かえで(スポーツ科学1年、大阪清教学園)、近藤結(スポーツ科学2年、愛媛・北条)が16強。個人(男子の部)は橋本新(体育3年、新潟青陵)が8強。団体はBリーグ2勝2敗だった。

川口は先鋒・次鋒を務めた。1年生が先鋒・次鋒を務めた。川口は「部員が増えたことで、練習でも上りが上がり、楽しみな技術が伸びる」と話す。

神山はインターハイで全国優勝し、期待されたが、大学では反復性の左右の肩関節脱臼に苦しむ。両肩の手術を経て、1年生4人が入部し、部員は1年1人、高溝遥風(スポーツ科学、福井・鯖江)、長田かえで(同和歌山北)の3人。

神山はインターハイで全国優勝し、期待されたが、大学では反復性の左右の肩関節脱臼に苦しむ。両肩の手術を経て、1年生4人が入部し、部員は1年1人、高溝遥風(スポーツ科学、福井・鯖江)、長田かえで(同和歌山北)の3人。



五輪銀メダリストが監督就任 「中高大連携で五輪を目指す」

2008年北京五輪銀メダリストの日本レスリング協会強化委員で元日本体育大学助教、湯元健一さんが4月、レスリング部監督に就任した。

湯元さんは、和歌山県出身。パリ五輪では全日本フリースタイルコーナとして、男子の樋口黎選手(57歳、清岡幸太郎選手(65歳)を金メダルに導いた。レスリング部は大阪体育大学浪速中学・高校のレスリング部とともに中高大一貫の指導体制を取り、高校体育館で、合同で練習している。1984年ロサンゼルス五輪で森宏一選手が7位に入ったが、以後、五輪選手は輩出していない。

湯元さんは本学に移籍した理由を「中高大の一貫指導は、日本では他にない魅力。ナショナルコーチとして得た世界のトレンドや新しい技術、世界で勝つレスリングを中学、高校、大学に教える機会が大きい」と語る。全日本フリースタイルコーナとしての経験が、中高大の監督に就任した湯元さんにとって大きな力になっている。

湯元さんは、日本レスリング協会強化委員として、中高大の連携指導に力を入れている。中高大の連携指導は、湯元さんにとって大きな力になっている。

レスリング部

水上競技部

男女14種目で表彰台 1年・松山 孝50m自由形V、メダル5個

関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会

第13回関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会が、6月14、15日、大阪市のAsue大阪プールで開かれ、松山優杏（スポーツ科学1年、兵庫・神戸野田）が女子50m自由形で優勝した。井上輝星（体育3年・福井工業大学附属福井）が男子200m個人メドレーで2位になるなど、6種目で2位、7種目で3位と、男女合わせて14種目で表彰台に立った。

女子 松山が初の50m自由形で26秒14を記録し、優勝を収めた。予選のタイムは、松山の26秒14、決勝では、高校のチームメイトである武庫川女子大学の選手に絶対的勝利と、気持ちを入れ替えて臨んだという。レース開始からハイペースで飛ばし、最後まで粘って優勝した。2回目の100m自由形でも58秒01で3位。リレーでは4×100mフリーリレーで2位、4×100mメドレーリレーで3位、200m個人メドレーでは高野朱理（スポーツ科学1年、富山・高岡第一）が自己ベストタイムの2分20秒76で3位に輝き、4×100mフリーリレーで2位、4×200mフリーリレーでも3位となった。

このほか、4年生の井上紗奈（体育4年、愛媛・新田）をはじめ、岸本明日香（教育2年、滋賀・大津）、入江美尋（スポーツ科学1年、大阪・大成学院大学）もリレーで活躍した。



井上輝星（体育3年、福井工業大学附属福井）



松山優杏（スポーツ科学1年、兵庫・神戸野田）



吉本早希（スポーツ科学2年、和歌山・笠田）



和田晃太郎（スポーツ科学2年、大阪・大成学院大学）



宗石星流（体育4年、高知商業）



高野朱理（スポーツ科学1年、富山・高岡第一）

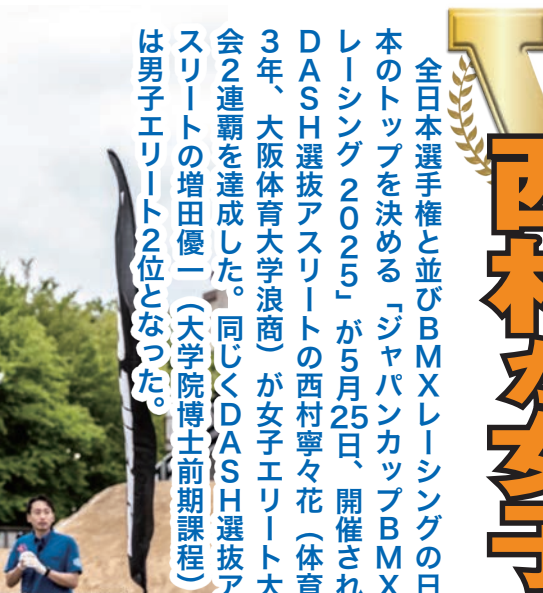


麻中大輝（体育3年、大阪・常翔学園）

男子 男子では、井上輝星（体育3年、福井工業大学附属福井）が200m個人メドレーで自己ベストタイムの2分55秒00を記録し、2位、井上はリレーでも活躍し、4×100mフリーリレーで3位、4×200mフリーリレーでも2位となった。400m個人メドレーでは和田晃太郎（スポーツ科学2年、大阪・大成学院大学）が4分26秒21で2位に輝いた。和は4×200mフリーリレーでも3番手で出場し、2位となった。



西村寧々花（体育3年、大阪体育大学附属）



このほか、田中拓紀（体育4年、岩手・盛岡北）、上田陽輝（スポーツ科学2年、大阪・向陽台）のほか、1年生の伊藤大智（スポーツ科学、秋田・御所野学院）、戸倉悠太（同、和歌山・紀北工業）、佐々木玲伍（同、岩手・盛岡南）、登飛瑛（教育、兵庫・報徳学園）らもリレーで重要な役割を担った。



増田優一（大学院博士前期課程）



この大会は世界選手権（8月、テマック）出場選手の選考兼ね、西村、増田は代表への選出が期待されている。西村は「大金星は雨でコースのコンディションが悪いもの、練習拠点にしているコースなので問題なく対応することができた。これから大きな大会が続くので、現在のフィジカルと海外での経験が活かせるようにしたい」と語っている。

Sportsnavi

スポーツナビ大阪体育大学公式情報

大阪体育大学の各クラブの活躍は、スポーツナビの本学公式情報で記事、写真を掲載し、広く社会に向けて情報発信しています。こちらのQRコードからご覧になれます。



本戦に単複14選手進出 インカレは出場逃す

関西学生春季テニストーナメント

男子 テニス部男子は関西学生春季トーナメントの本戦にシングルス7人、ダブルス3組の計14選手が進出した。富地弘太郎監督は「14人が本戦に勝ち上がったのは初めてではないか」と話す。



片山稜太（体育4年、岡山理科大学附属、右）

しかし、本戦の試合は苦戦した。シングルスでは、垣内勇星（体育4年、山口・西京）、平山凛太郎（体育3年、鹿児島実業）は勝利したが、他の5人は初戦で敗れた。ダブルスは、羽田龍也（体育4年、大阪・清風）、渡邊大樹（同、和歌山・初芝橋本）組、村上葵英（体育3年、福岡・柳川）組、下林海瑠（同、清風）組が1勝、他の3組は初戦で敗れた。全員が全日本インカレ出場を逃がし、富地監督は「インカレは久しぶり。取れる試合を落とす場面が多かった」と振り返る。



嶺岸恵（スポーツ科学2年、宮崎日本大学、右）

第2シードで臨んだが、プレッシャーもあって地力を発揮できず、インカレは雪辱の場となる。川西・紀定組は、攻撃的な紀定がサーブで崩しフォアを追い込んだところを川西がボレーを決めて勝ち上がった。川西は課題だったサーブ、フォアを3年かけて鍛えて逆に武器にするなど地道な練習が成績に結び付いた。

単複4人がインカレへ 努力実り成果出す選手も多く

硬式テニス部

関西学生春季テニストーナメント

女子 テニス部女子は関西学生春季トーナメントでシングルス5人、ダブルス3組が本戦出場。うち8月の全日本インカレに、シングルスで嶺岸恵（スポーツ科学2年、宮崎日本大学）、岡村凛那（同、鹿児島・鳳凰）が1勝して予選出場、ダブルスで4強の岡村・嶺岸組、8強で代表決定戦に勝った川西・紀定組が本戦出場を果たした。

嶺岸は小柄だが、よく動くオールラウンダー。1年間、フィジカルトレーニングを磨いた成果が出て、2回戦では第3シードの選手をライナルセツトまで追い詰めた。岡村は昨年度の関西学生連盟最優秀新人賞を受賞した逸材で、

新城値千金ヘッドで5季ぶりV リーグ最少失点の堅守光る

関西学生女子サッカー春季リーグ



サッカー部女子は関西学生女子春季リーグ最終節の6月22日、追手門学院大学と1-1で引き分け、通算6勝1分け0敗、勝ち点19で、2022年秋以来5シーズンぶりの優勝を果たした。



ヘディングゴールを決める新城(背番号5)

女子 それまで6戦全勝だった大体系は、前半は優勢に試合を進めながらゴールを決められず、0-0で折り返した。後半25分、コーナーキックからDFの新城琴美(スポーツ科学3年、岡山県作陽)がヘディングでゴールを決めて先制。新城は春先



川浪実歩(体育4年、鹿児島・神村学園)

にひきを痛め、約7週間前に復帰したばかりだったが、得点が奪えず、暑さを厳しく苦しい時間帯に貴重な1点を挙げた。修了間際に失点したが、

チームは、4年生は全員で5人、フレイヤーは4人だけで全学年で戦った。センターバックとして守備を統率してきた清悠香(体育4年、徳島・鳴門渦潮)らが大体系の



宿命として教育実習で抜ける中、東瑞里(体育3年、大阪桐蔭)がセンターバックの穴を埋めた。

絶対的なストライカーはいなくても、橋本結菜(体育3年、同)、矢野紗也佳(スポーツ科学3年、同)、北原歩奈(体育3年、山梨・日本航空)が3得点。リーグ最少の失点の堅いディフェンスが優勝の決め手となった。

石屋官子監督は「久々に優勝したとわづらった。前節まで最少失点行けたことが大きかった。今後に向けて、選手が入れ替わってもそんなのなような総合力をつけ、連戦を勝ち切る力を備えたい」と話す。チームの目標である「アンカレで西が丘(準決勝進出)に向けて、好スタートを切った」。

長崎監督は「強化の方向性は間違っていない。課題ははっきりしている。ヘラクレス復活に向けた正念場の夏を迎える」。

サッカー部

個に頼らずチームで戦う

1、2年生台頭に手応え

関西学生サッカーリーグ



佐野寛(体育4年、広島瀬戸内)



佐藤陽成(体育4年、北海道・サドレ札幌U-18)



白田那(スポーツ科学3年、秋田・クレスミア大附校)

サッカー部男子は第103回関西学生リーグで、6月末時点で3勝2敗5分け、勝ち点14で6位につけている。

松尾元太監督は「内容面での成長が徐々にみられている点で、順位以上にポジティブにとらえている」と戦いぶりを評価する。

年生のMF高秋優太(スポーツ科学・新潟・帝京大)、DF西口大稀(同・島根・立正大学)、MF矢田幸紀(同・大阪・向陽台)が台頭。試合ごとに変化に対応できる柔軟性が高まった、特に守備面で運動性が上がったという。

5月に関西大学に8試合目



三島大(スポーツ科学3年、島根・立正大学)

で初黒星を喫し、続く同志社大学戦でも連敗したが、その後の阪南大学戦で佐野寛がPKを決めて1-0で勝ち、立て直した。



大塚(体育4年、奈良・東海大学)



林哲大(体育4年、愛媛・松山聖徳)



丸本正真(スポーツ科学3年、大阪・都島工業)

ラグビー部

関西大学ラグビー春季トーナメント

ラグビー部は5、6月の関西大学春季トーナメントで10位。初戦の摂南大学(昨季Aリーグ7位)に26-31で敗れて敗者戦に回り、環太平洋大学に54-13で勝利。最終戦で龍谷大学(Bリーグ2位)に22-43で敗れた。

と話す。Bリーグ1位で臨んだ昨年の入替戦は、関西大学にロスタイム18-19と逆転される劇的な敗戦で、2019年シーズン以来6年ぶりとなるAリーグを逃がした。今季はスクラムを8人で組み切ることを意識しているが、龍谷大学戦ではスクラムで反則を取られる場面も目立ち、また強化の途上だ。

目標の「レベル5」ならず 秋のA昇格向けスクラム磨く

インカレ無念の準優勝 春の高知大会

硬式野球部
女子

全日本大学女子硬式野球選手権高知大会

硬式野球部女子は5月に高知県安芸市宮球場などで行われた第11回全日本大学選手権高知大会で、仙台大学に2-3で敗れ、全日本インカレ高知大会としては初となる優勝をあと一步で逃した。

夏の和歌山大会で雪辱を



山本二花（体育4年・大阪・麗正社）



谷依（教育1年・京大・大西）



菅川莉子（体育3年・鹿児島・神村学園）

しかし、打線はつながりに



木村睦実（体育4年・京都・同志）



柏崎咲和（体育4年・福井工業大学附属福井）

大体大は一回に2点を先行され、一回裏に5番・木村睦実（体育4年・京都同志）のタイムリーで1点を返し、四回も木村の二塁打を起死に生還。同点とした。しかし、五回に勝ち越し、準決勝で完投したエース・柏崎咲和（体育4年・福井工業大学附属福井）が連投で六・七回を抑え、あと一本が出なかった。横井光治監督は「優勝は見えたかった」と悔やむ。創部3年目の仙台大にはこれまで毎年対戦して負けたことがなく、予選リーグでも2-0で勝っていた。また、創部16年の歴史で「過去一番」という強打線に大会に臨んでいた。

欠いた。木村が打率4割1分2厘、4長打と絶好調で6試合中5試合で打点挙げ、主将で4番の山本二花（体育4年・大阪・麗正社）も勝負強い打撃を見せたが、単発の攻撃となった。

収穫は、1年生投手の台頭だ。4月末の練習試合で、エース・柏崎が打球左手のひらに受け、骨挫傷で完投までの週間程度必要と診断された。このため、清井裕月（スポーツ科学・兵庫・高麗）（谷依（教育1年・京大・大西））が先発し、清井がリリーフとして、左腕の清井は腕の出どころが見え、フォームと独特のフォーム、谷は最速115km/hの速球を中心に組み立て、連日、好投した。

エース・柏崎も、ドクターに相談して週明け練習を再開した。2戦目で先発すると、以後も毎試合先発し、準決勝は2失点完投。ダブルヘッダーの決勝も1点を追う六回に救援。計22イニングで3失点と大車輪の働きを見せ、抜くところば抜き、ギアを上げることで調整ができていたと語った。

また、バッテリーと内野全ポジションの6選手は日本代表・侍ジャパンの候補選手に選ばれ、6月に広島県三次市で強化合宿に参加した。日本代表でコーチを務める横井監督は「侍ジャパンの監督、コーチの教えをチームに還元してほしい」と話す。

女子硬式野球は、全日本インカレが5月の高知大会と8月の和歌山大会の2回ある。現在の4年生は、2021年の初優勝を見学した世代だ。横井監督は「支援だけでなく大和リースをはじめ、学内外の多くの方からの声援は年々、強まっていると感じる。夏こそ必ず優勝」と誓う。

北尾、齋藤ベストナイン 開幕連敗響き4位

硬式野球部
男子

阪神大学野球春季リーグ

硬式野球部男子は4月5月の阪神大学野球春季リーグでは4勝6敗、12ポイントで4位。昨春の3位、昨秋の2位から順位を下げた。



北尾太一（体育3年・兵庫・須磨学園）



石見輔（体育4年・高知・大谷）



高田誠（体育3年・兵庫・報徳学園）



齋藤也（体育4年・岡山・玉野光南）

初戦の大阪産業大学戦は4失策が出て、2戦目0-0のタイブレークから失策でサヨナラ負け。スタートでまず、松平一彦監督は「苦しいリーグ戦だったと振り返る。

投手陣は、先発の柱として期待した最速147km/hの高田誠（体育3年・兵庫・報徳学園）が、林勝宏（体育4年・北海道駒澤大学附属苫小牧）の調子が上がらず、チームの調子はリーグワーストの4-48だった。

その中で奮闘したが、北尾太一（体育3年・兵庫・須磨学園）の多彩な変化球を制球良く低めに集めて、チーム全10試合中9試合で救援し、20イニング14奪三振で、リーグ最多タイ、チームの全勝利となる4勝。防御率はリーグトップの0.90でベストナインに輝いた。また、高木太陽（体育4年・徳島・城東）も140km/hの速球で好投した。打線は、打率2割3分9厘に伸び、3盗塁と機動力を兼ね備えていたが、齋藤也（体育4年・岡山・玉野光南）が打率3割3分3厘の打撃と三塁の安定した守りでベストナインに。チームの長打力がある石見輔（体育4年・京都・大谷）が公式戦初レギュラーで4番を務め、1番の山本樹紀（体育4年・和歌山・星林）が打率3割6分8厘を残すなど明るい材料もある。

教員・公務員をめざす学生が多い大体大の宿命として、春で引退する4年生も多いが、2019年春を最後に迎えた優勝を秋にかけ、春は多岐な投打の柱、高田と平子真弘（体育4年、日本航空）の復調がその力を握る。